

## 気候変動の影響と脆弱な国土条件

＜流域治水プロジェクト関連資料＞

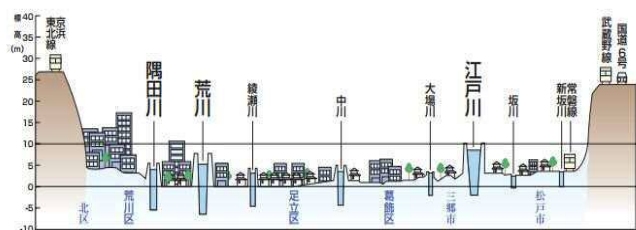
- 令和元年東日本台風での広範囲にわたる記録的な大雨など、近年、**毎年必ず大規模な自然災害が発生。**
- そもそも、我が国は、河川が急勾配で、ゼロメートル地帯に三大都市圏の約404万人が居住する等、**世界的にもまれに見る脆弱な国土条件を有しており、自然災害リスクが極めて高い。**
- 氾濫危険水位を超過した河川数が近年5倍強となるなど、**気候変動の影響が顕在化。**

## ■ 我が国の脆弱な国土条件

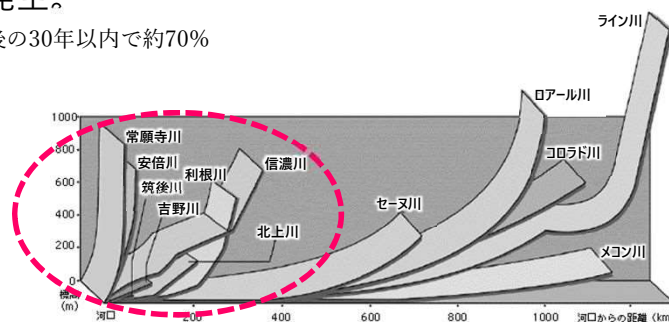
- 四方を海で囲まれ、国土の中央を脊梁山脈が縦貫しており、**河川が急勾配**であるとともに、都市部において**ゼロメートル地帯**が広域にわたり存在。

- 世界の**大規模地震の約2割**が我が国周辺で発生。

※ 首都直下地震、南海トラフ地震の発生確率は、それぞれ今後の30年以内で約70%



【江戸川・荒川・隅田川と市街地の標高の関係】



【我が国と諸外国の河川勾配比較】

- 国土の約3割が洪水や地震災害（震度被害）等の災害リスク地域であり、**災害リスクにさらされる人口はおよそ7割。**

- 例えば、三大都市圏の約404万人が「ゼロメートル地帯」に居住している状況。

リスクエリア面積 (国土面積に対する割合)	リスクエリア内人口 (2015) (全人口に対する割合)	リスクエリア内人口 (2050) (全人口に対する割合)
約112,900km <sup>2</sup> (29.9%)	約8,556万人 (67.5%)	約7,134万人 (70.0%)

※ 洪水、土砂災害、地震災害（震度被害）、津波災害

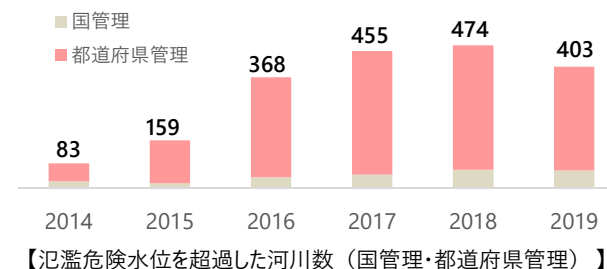
【災害リスク※にさらされる地域の面積と当該地域に居住する人口】



(出典：国土審議会計画推進部会国土の長期展望専門委員会 第二回資料)

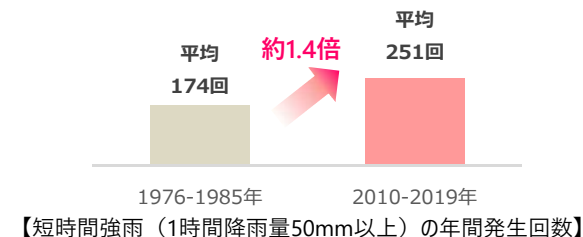
## ■ 気候変動による自然災害の頻発・激甚化

- **氾濫危険水位を超過した河川数は、増加傾向。**



- **短時間強雨の発生頻度が直近30～40年間で約1.4倍に拡大。**

※ 令和元年東日本台風では、103もの地点で24時間降水量が観測史上1位の値を更新。



平成27  
〜  
29年

## 平成27年9月関東・東北豪雨



①鬼怒川の堤防決壊による浸水被害  
(茨城県常総市)

## 平成28年熊本地震



②土砂災害の状況  
(熊本県南阿蘇村)

## 平成28年8月台風10号



③小本川の氾濫による浸水被害  
(岩手県岩泉町)

## 平成29年7月九州北部豪雨



④桂川における浸水被害  
(福岡県朝倉市)

平成30年

## 7月豪雨



⑤小田川における浸水被害  
(岡山県倉敷市)

## 台風第21号



⑥神戸港六甲アイランドにおける浸水被害  
(兵庫県神戸市)

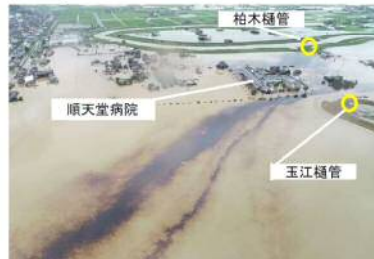
## 北海道胆振東部地震



⑦土砂災害の状況  
(北海道勇払郡厚真町)

令和元年

## 8月前線に伴う大雨



⑧六角川周辺における浸水被害状況  
(佐賀県大町町)

## 房総半島台風



⑨電柱・倒木倒壊の状況  
(千葉県鴨川市)

## 東日本台風

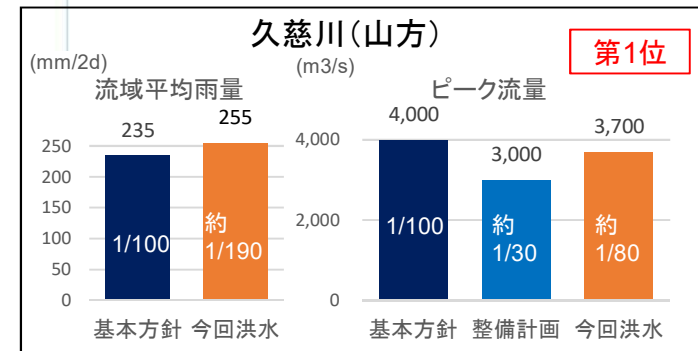
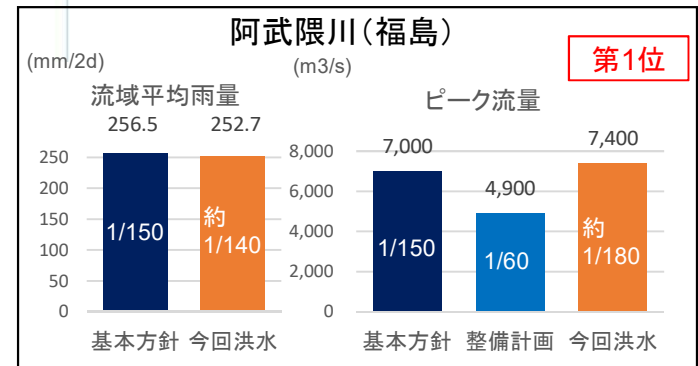
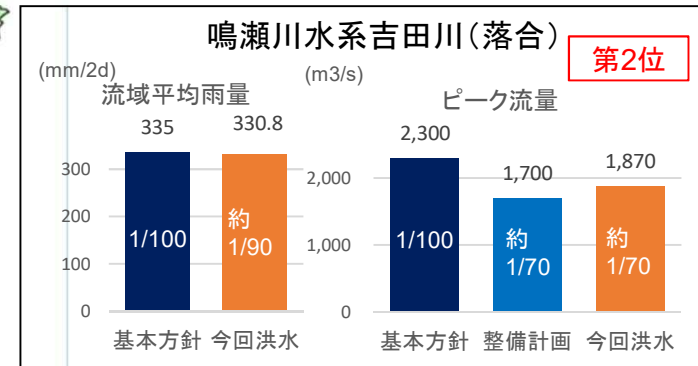
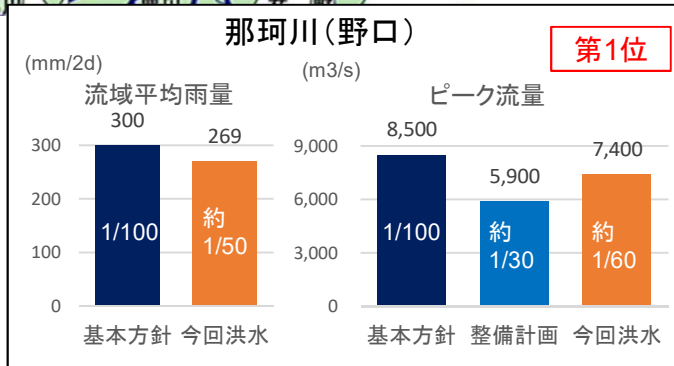
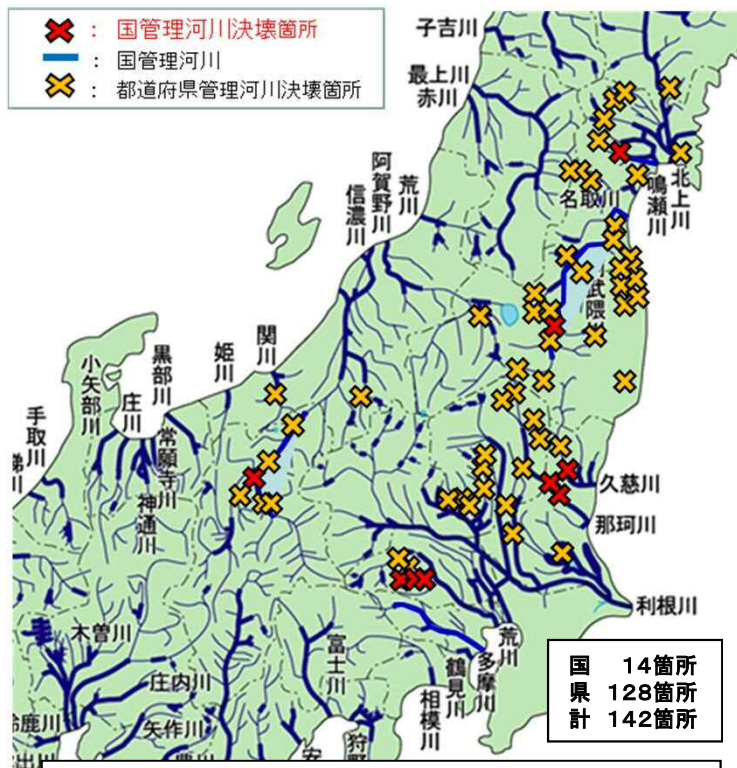
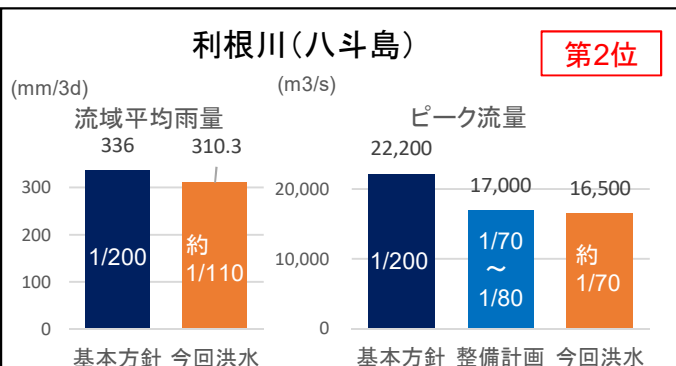
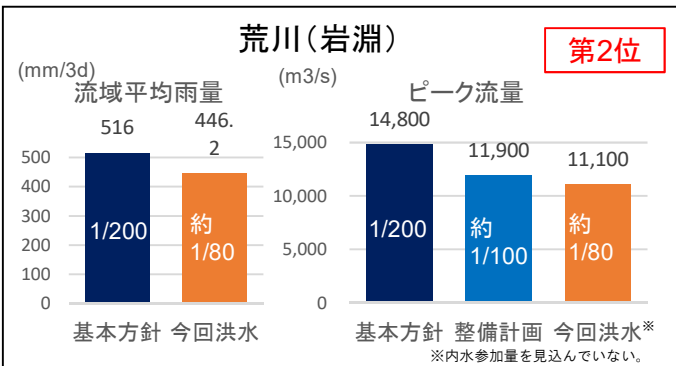
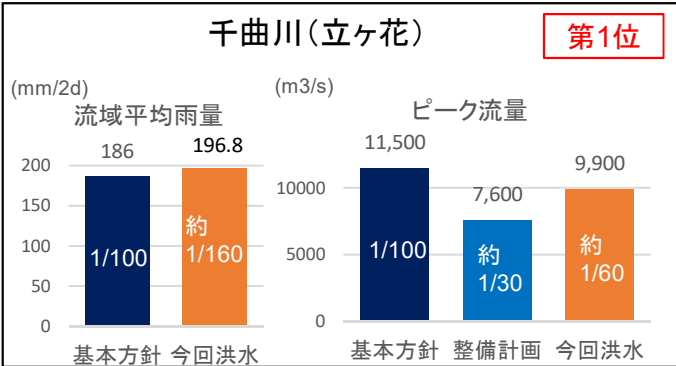


⑩千曲川における浸水被害状況  
(長野県長野市)



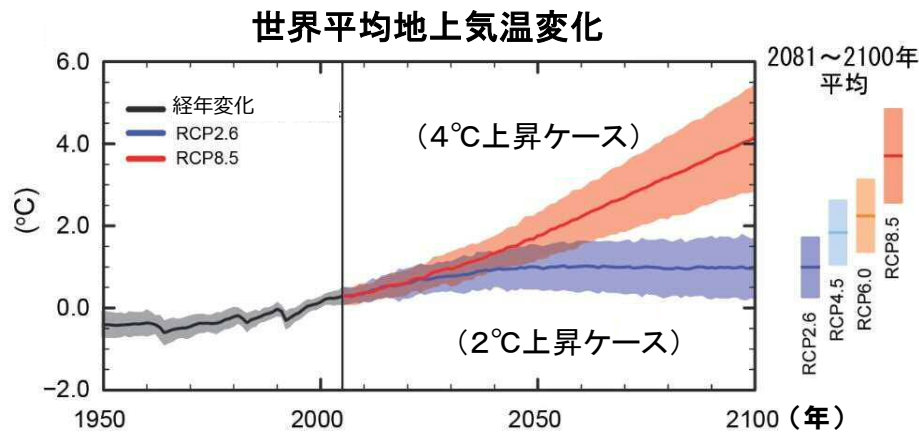
# 令和元年東日本台風による国管理河川の状況(降雨、流量)

- 主な河川における基準地点上流域平均雨量は、河川整備基本方針の対象雨量を超過又は迫る雨量となった。
- 流量は、観測史上最大又は2位を記録し、河川整備計画の目標(戦後最大等)を超過又は迫る流量となった。
- 阿武隈川では、基本方針の流量を超過した。



※数値は、速報値(R2.1時点)であり、今後変更となる場合がある。  
 ※流量はダム・氾濫戻し。雨量は、対象降雨の継続時間の基準地点上流域の平均雨量。

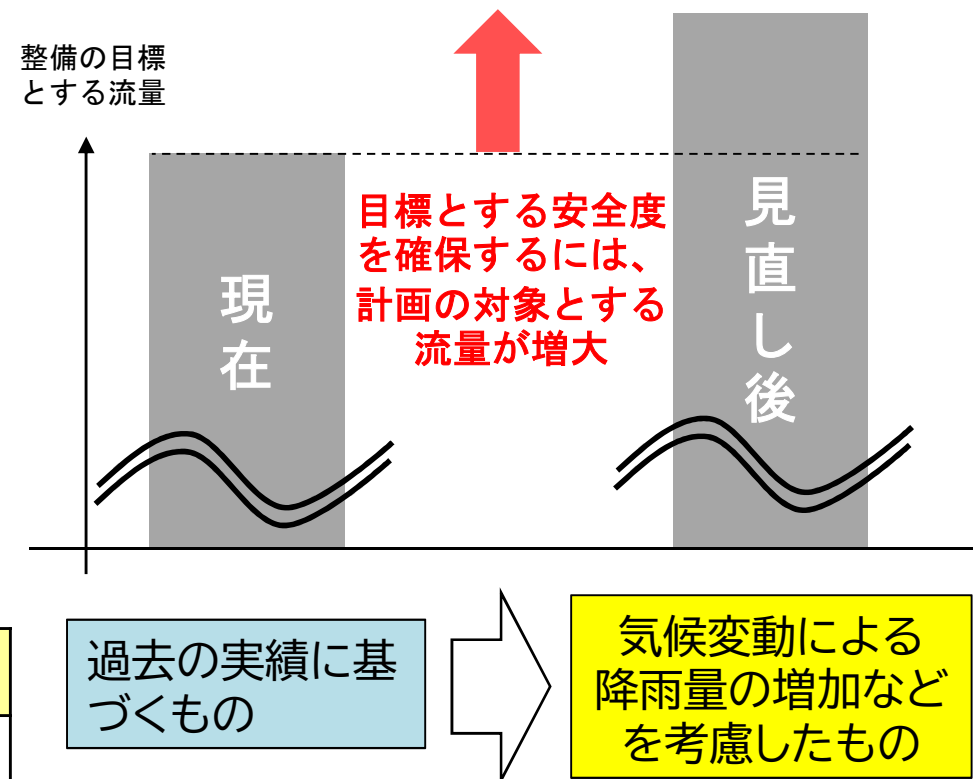
- 災害の発生状況やIPCCの評価等を踏まえれば、将来の気候変動はほぼ確実と考えられ、緩和策と適応策とを車の両輪として進め、気候変動に対応する必要
- 温暖化が進行した場合に、目標としている治水安全度を確保するためには、「過去の実績降雨に基づくもの」から「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に計画の見直しが必要



降雨量変化倍率をもとに算出した、  
流量変化倍率と洪水発生頻度の変化

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2°C上昇相当※	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

※ 2°Cは、温室効果ガスの排出抑制対策(パリ協定)の目標とする気温



**課題** 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、集水域から氾濫域にわたる流域に関わる関係者が、主体的に取組む社会を構築する必要がある。

**対応** ◆河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換することによって、施策や手段を充実し、それらを適切に組合せ、加速化させることによって効率的・効果的な安全度向上を実現する。  
 ◆併せて、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを、官民連携・分野横断により推進し、雨水の貯留・浸透を図る。

### 氾濫を防ぐための対策 ～ハザードへの対応～

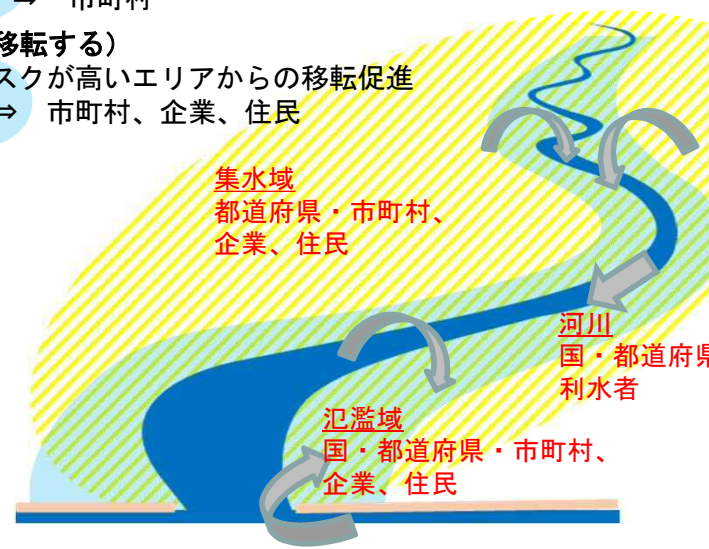
### 被害対象を減少させるための対策 ～暴露への対応～

### 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策 ～脆弱性への対応～

- (しみこませる)※**  
雨水浸透施設（浸透ます等）の整備  
⇒ 都道府県・市町村、企業、住民
- (ためる)※**  
雨水貯留施設の整備、  
田んぼやため池等の高度利用  
⇒ 都道府県・市町村、企業、住民
- ダム、遊水地等の整備・活用**  
⇒ 国・都道府県・市町村、利水者
- (安全に流す)**  
河床掘削、引堤、放水路、砂防堰堤、遊砂地、  
雨水排水施設等の整備  
⇒ 国・都道府県・市町村
- (氾濫水を減らす)**  
堤防強化等  
⇒ 国・都道府県

- (被害範囲を減らす)**  
土地利用規制、高台まちづくり  
⇒ 国・都道府県・市町村、企業、住民
- 二線堤等の整備**  
⇒ 市町村
- (移転する)**  
リスクが高いエリアからの移転促進  
⇒ 市町村、企業、住民

- (避難態勢を強化する)**  
ICTを活用した河川情報の充実  
浸水想定等の空白地帯の解消  
⇒ 国・都道府県・市町村・企業
- (被害を軽減する)**  
建築規制・建築構造の工夫  
⇒ 市町村、企業、住民
- (氾濫水を早く排除する)**  
排水門の整備、排水ポンプの設置  
⇒ 市町村等
- (早期復旧・復興に備える)**  
BCPの策定、水災害保険の活用  
⇒ 市町村、企業、住民
- (支援体制を充実する)**  
TEC-FORCEの体制強化  
⇒ 国・企業



※グリーンインフラ関係施策と併せて推進

凡例			
	河川での対策	集水域での対策	氾濫域での対策

## 対応

◆河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換することによって、施策や手段を充実し、それらを適切に組合せ、加速化させることによって効率的・効果的な安全度向上を実現する。

## 「流域治水」の具体例

### 河川・下水道管理者による対策

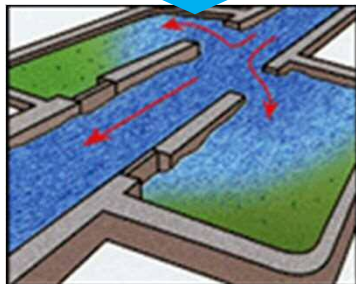
#### 堤防整備



#### ダム建設・ダム再生



#### 遊水地



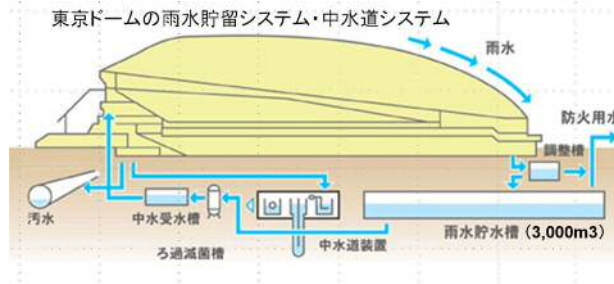
#### 大規模地下貯留施設(下水道)



#### 防災調整池

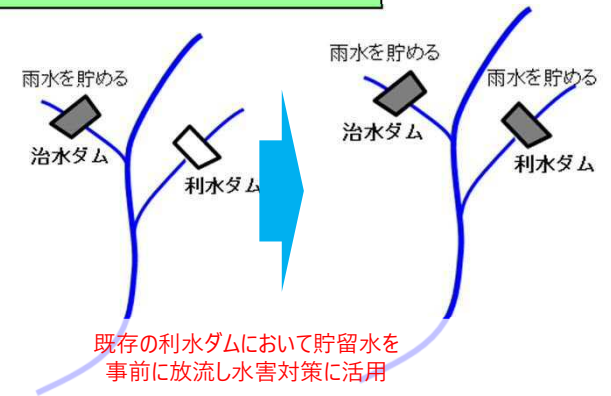


#### 公共施設地下貯留(東京ドーム)

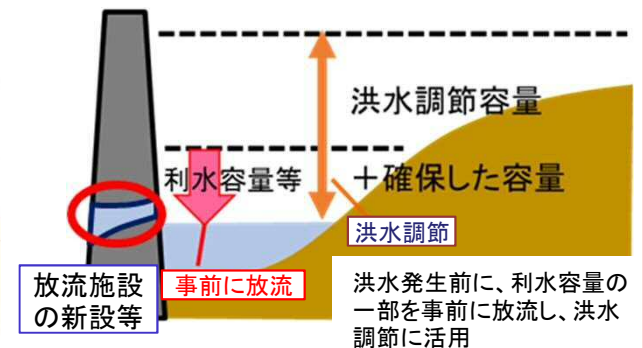


### 市町村や民間等による対策

#### 既存の利水ダムの治水活用



(既存ダムの活用例)

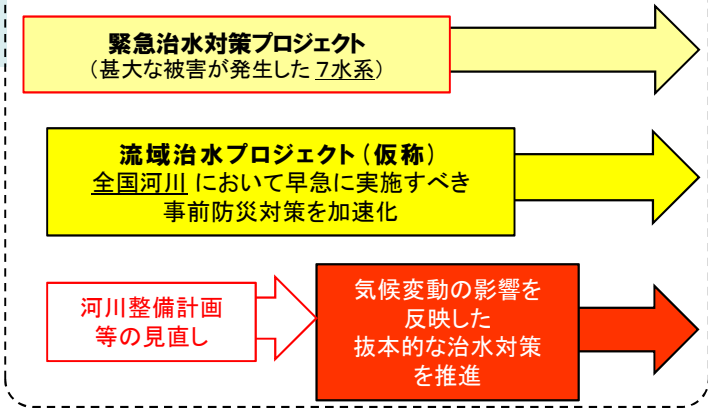


## ～事業の必要性・効果等をわかりやすく提示～

**課題** ◆現状の整備水準では、気候変動により激甚化・頻発化する水災害に対応できない。また、行政が行う防災対策を国民にわかりやすく示すことが必要。

**対応** ◆令和元年東日本台風で甚大な浸水被害が生じた7水系における対策のみならず、全国の一級水系における早急に実施すべき流域全体での対策の全体像を示し、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速。  
◆「過去の実績に基づくもの」から「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に、計画を見直し、抜本的な対策に着手。

今後の治水対策の進め方（イメージ）



### 全国7水系における「緊急治水対策プロジェクト」

◆令和元年東日本台風（台風第19号）により、甚大な被害が発生した7水系において、国・都県・市区町村が連携し、今後概ね5～10年で実施するハード・ソフト一体となった「緊急治水対策プロジェクト」に着手。

水系名	河川名	緊急治水対策プロジェクト (概ね5～10年で行う緊急対策)		
		事業費	期間	主な対策メニュー
阿武隈川	阿武隈川上流	約1,840億円	令和10年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 支川に危機管理型水位計及びカメラの設置 浸水リスクを考慮した立地適正化計画展開 等
	阿武隈川下流			
鳴瀬川	吉田川	約271億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堤防整備 【ソフト対策】 浸水想定地域からの移転・建替え等に対する支援 等
荒川	入間川	約338億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 高台整備、広域避難計画の策定 等
那珂川	那珂川	約665億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 霞堤等の保全・有効活用 等
久慈川	久慈川	約350億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堤防整備 【ソフト対策】 霞堤等の保全・有効活用 等
多摩川	多摩川	約191億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堰改築、堤防整備 【ソフト対策】 下水道樋管等のゲート自動化・遠隔操作化 等
信濃川	信濃川	約1,768億円	令和9年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 田んぼダムなどの雨水貯留機能確保 マイ・タイムライン策定推進 等
	千曲川			
合計		約5,424億円		

※令和2年3月31日 HP公表時点

### 全国の各河川で「流域治水プロジェクト（仮称）」を公表

◆全国の一級水系を対象に、早急に実施すべき具体的な治水対策の全体像を、都道府県や市町村と連携して検討し、国民にわかりやすく提示。

【イメージ】 ○○川流域治水プロジェクト

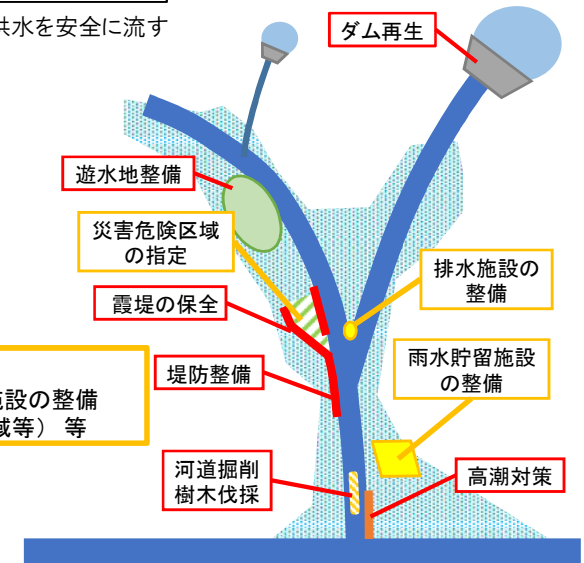
- ★ 戦後最大（昭和XX年）と同規模の洪水を安全に流す
- ★ 浸水範囲（昭和XX年洪水）

（対策メニューのイメージ）

■河川対策  
・堤防整備、河道掘削  
・ダム再生、遊水地整備 等

■流域対策（集水域と氾濫域）  
・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備  
・土地利用規制・誘導（災害危険区域等） 等

■ソフト対策  
・水位計・監視カメラの設置  
・マイ・タイムラインの作成 等



# 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた取組

■洪水調節機能強化(ソフト対策)として事前放流の検討を実施。5月末までに治水協定締結を目標

## ○目的

事前放流は、治水の計画規模や河川(堤防等)・ダム等の施設能力を上回る洪水の発生時におけるダム下流河川の沿川における洪水被害の防止・軽減を目的とする。

## ○事前放流とは

洪水の発生が予想された場合、一時的に洪水を調節するための容量を利水容量から確保し、洪水調節に利用可能な容量(「洪水調節可能容量」)を増強すること。

## ○島地川ダムにおける事前放流検討 ※事前放流ガイドライン(案)令和2年4月に基づく検討

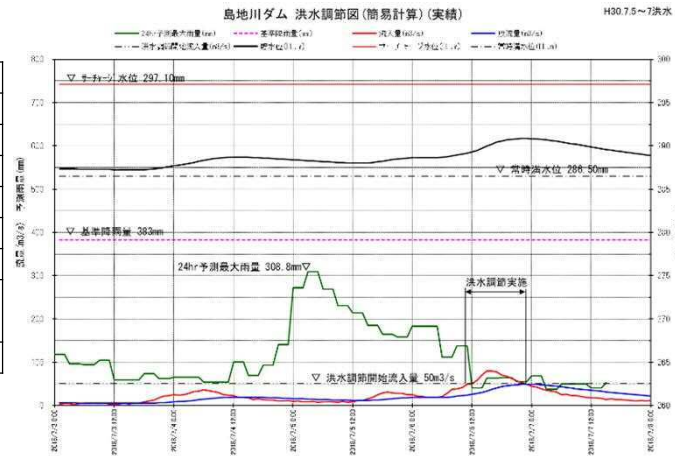
相当雨量(300mm)=720万<sup>m</sup>³(洪水調節容量)/32km<sup>2</sup>(流域面積)÷0.75(流出係数)  
 カット率(0.784)=(370(計画最大流入量)-80(計画最大流入時放流量))/370(計画最大流入量)  
 事前放流実施基準降雨量=相当雨量(300mm)/カット率(0.784)=**383mm**

### 事前放流実施基準降雨量(383mm)

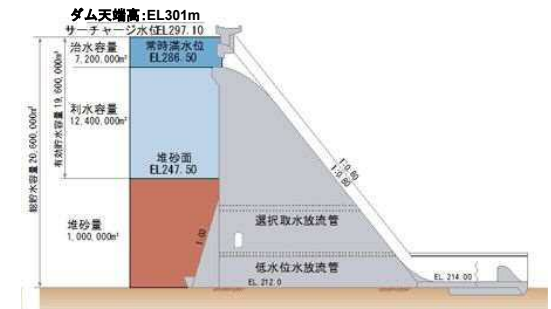
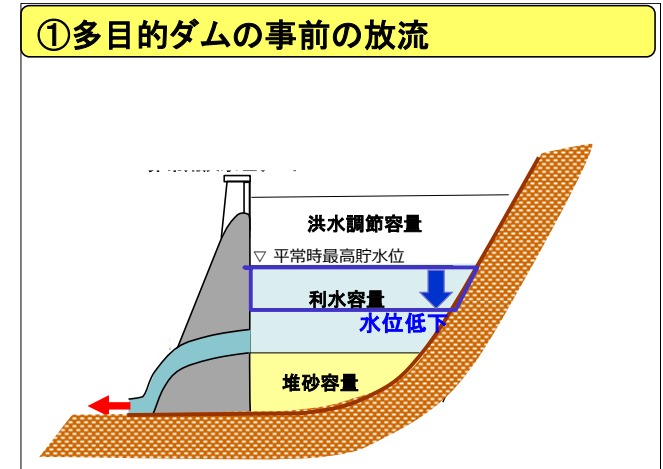
【島地川流域におけるGSM84hr又はMSM39hrの24hr予測雨量が基準降雨量を超過した場合に事前放流を実施】

	洪水年月日	流域平均雨量(mm)		GSM84hr又はMSM39hr予測雨量	
		時間最大	総雨量	24hr予測最大	事前放流
1	H21.7.21	38.6	143.8	144.4	不要
2	H22.7.12~15	37.4	302.1	157.8	不要
3	H25.6.19~21	20.4	169.9	179.1	不要
4	H26.7.7~8	22.7	144.5	172.9	不要
5	H27.8.25~26	22.3	107.7	160.3	不要
6	H28.6.20~21	25	119.2	163	不要
7	H28.6.22~23	30	160.7	163	不要
8	H30.7.5~7	22	256.7	308.8	不要

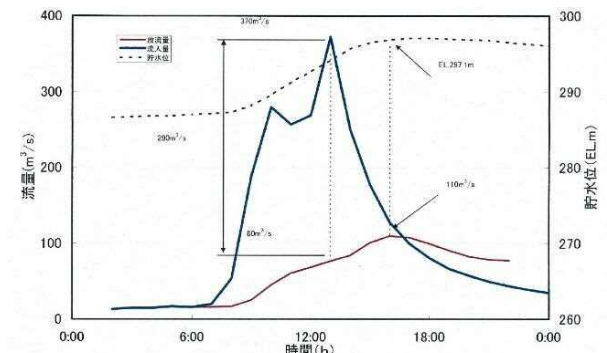
近10年主要洪水の雨量



参考: H30.7洪水における検証結果



島地川ダム貯水池容量配分図



島地川ダム洪水計画図

・島地川ダムの近10ヶ年主要洪水における検証では、GSM84hrorMSM39hrの24hr予測雨量が基準降雨量383mmに達しないため事前放流は不要となり利水容量に影響は与えない。



# 令和元年東日本台風関連 7水系緊急治水対策プロジェクト

【令和2年度版】

- 令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した7水系において、国、都県、市区町村が連携し、今後概ね5～10年で実施するハード・ソフト一体となった「緊急治水対策プロジェクト」を進めています。
- 令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や、河道掘削等の改良復旧を進めていきます。

## 全体：7水系

### ■河川における対策

約5,424億円(国:4,302億円、県:1,122億円)

災害復旧 約1,509億円(国:683億円、県:826億円)

改良復旧 約3,915億円(国:3,619億円、県:296億円)

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。



### 吉田川・新たな水害に強いまちづくりプロジェクト 約271億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、堤防整備
- ソフト対策
  - ・浸水想定地域からの移転・建替え等に対する支援 等



吉田川左岸20k9付近

### 阿武隈川緊急治水対策プロジェクト 約1,840億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、遊水地、堤防整備
- ソフト対策
  - ・支川に危機管理型水位計及びカメラの設置
  - ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画展開 等



阿武隈川左岸98k6付近

### 久慈川緊急治水対策プロジェクト 約350億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、堤防整備
- ソフト対策
  - ・霞堤等の保全・有効活用 等



久慈川左岸34k付近

### 那珂川緊急治水対策プロジェクト 約665億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、遊水地、堤防整備
- ソフト対策
  - ・霞堤等の保全・有効活用 等



那珂川右岸28k6付近

### 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト 約1,768億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、遊水地、堤防整備
- ソフト対策
  - ・田んぼダムなどの雨水貯留機能確保
  - ・マイ・タイムライン策定推進 等



千曲川左岸58k付近

### 入間川流域緊急治水対策プロジェクト 約338億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、遊水地、堤防整備
- ソフト対策
  - ・高台整備、広域避難計画の策定 等



越辺川右岸0k付近

### 多摩川緊急治水対策プロジェクト 約191億円

- ハード対策
  - ・河道掘削、堰改築、堤防整備
- ソフト対策
  - ・下水道樋管等のゲート自動化・遠隔操作化 等



多摩川右岸20k付近

※今後の調査・検討等により追加・変更がある。

# 阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

【令和2年度版】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

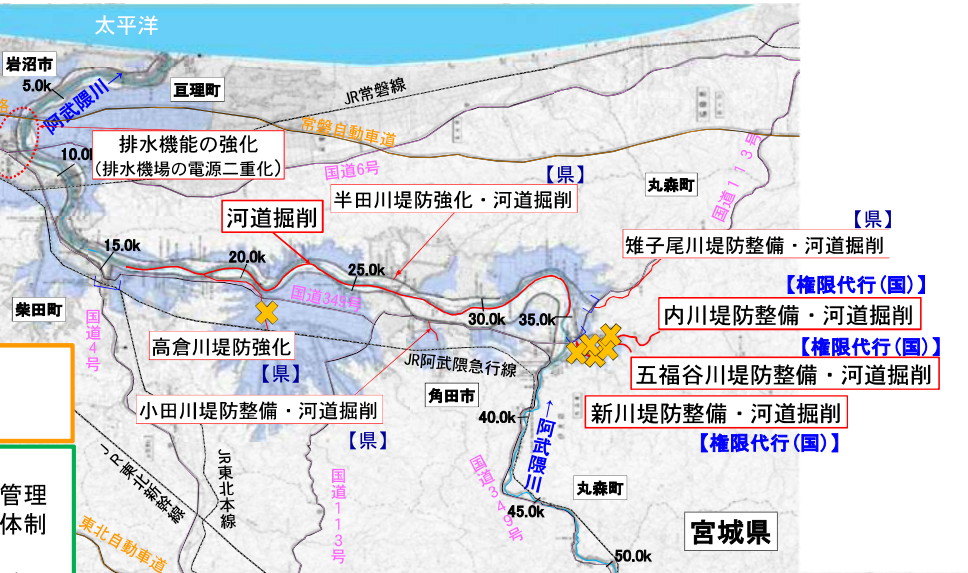
- 令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した阿武隈川において、国、県、市町村が連携し、「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。
- 国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、より水害に強いまちづくりを目指します。
  - ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
  - ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
  - ③減災に向けたさらなる取り組みの推進【ソフト施策】
- 令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や、河道掘削等の改良復旧、危機管理型水位計・カメラの整備(流域対策、ソフト施策)を進めていきます。



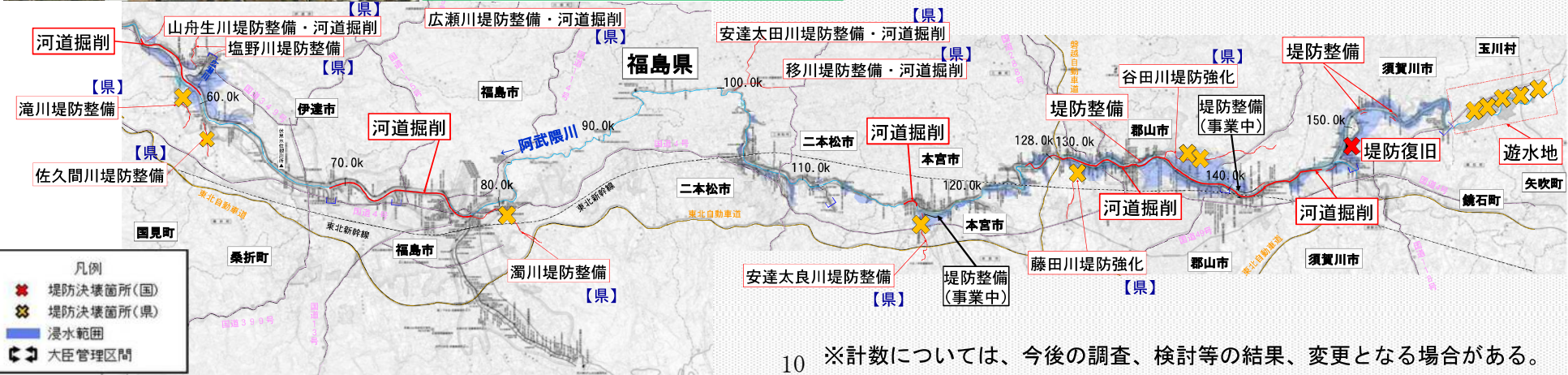
**河川における対策**

- 全体事業費 約 1,840億円  
 【国: 約 1,444億円、県: 約 396億円】
- 災害復旧 約 542億円  
 【国: 約 229億円、県: 約 312億円】
- 改良復旧 約 1,298億円  
 【国: 約 1,214億円、県: 約 84億円】
- 事業期間 令和元年度～令和10年度
- 目標 令和元年東日本台風洪水における本川からの越水防止
- 対策内容 河道掘削、堤防整備等

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。



- 流域における対策**
- ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の展開
  - ・一時貯留施設の設置
- ソフト対策**
- ・バックウォーター現象を考慮した危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築
  - ・中小河川や内水を考慮したタイムライン策定推進



凡例

- ✖ 堤防決壊箇所(国)
- ✖ 堤防決壊箇所(県)
- 浸水範囲
- ↔ 大臣管理区間

# 吉田川・新たな水害に強いまちづくりプロジェクト ～大規模氾濫被害の最小化に向けた、より水害に強いまちづくりの実践～

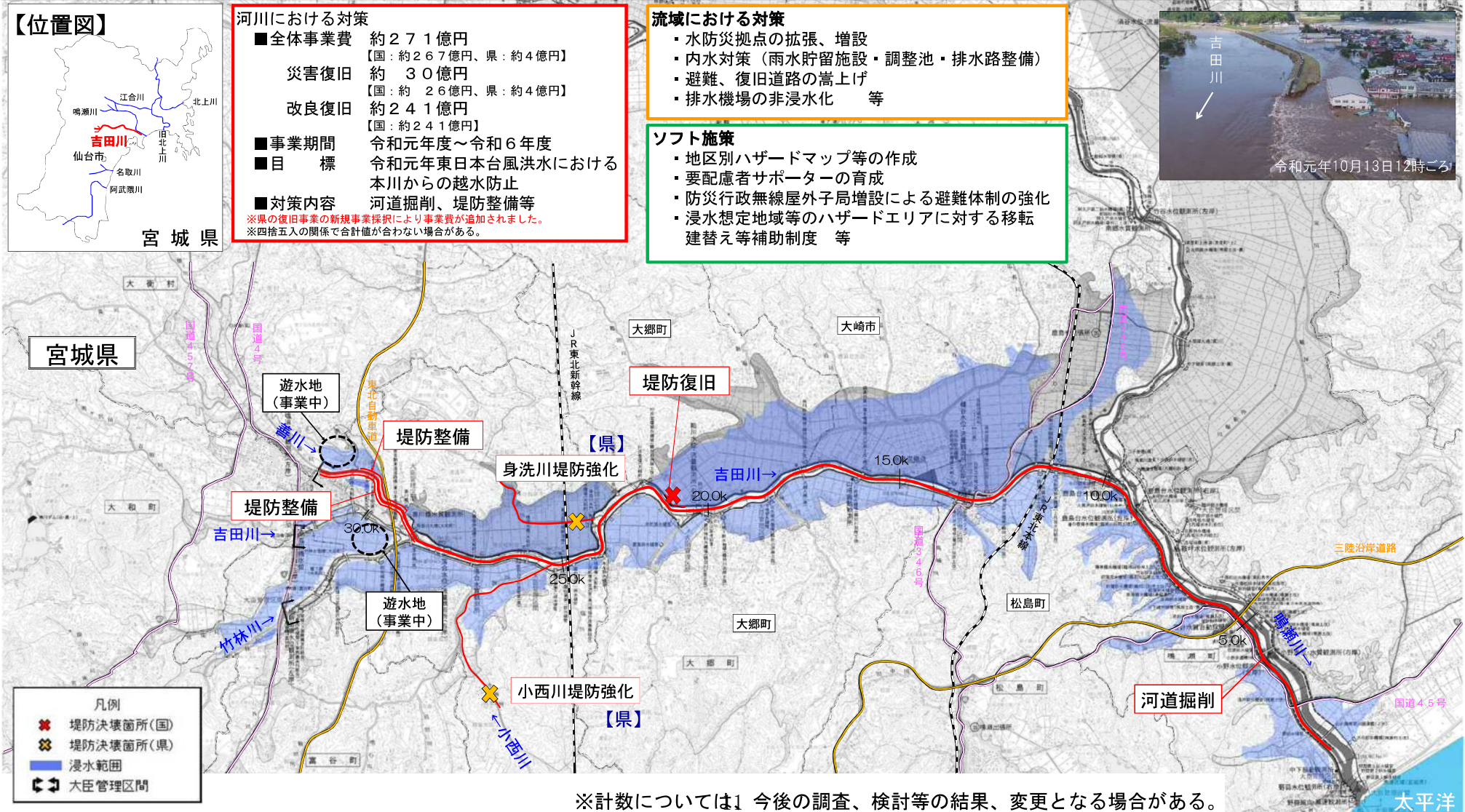
【令和2年度版】

○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した鳴瀬川水系吉田川において、国、県、市町が連携し、「吉田川・新たな水害に強いプロジェクト」を進めています。

○国、県、市町が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、より水害に強いまちづくりを目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けたさらなる取り組みの推進【ソフト施策】

○令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や、河道掘削等の改良復旧、雨水貯留施設の整備(流域対策、ソフト施策)を進めていきます。

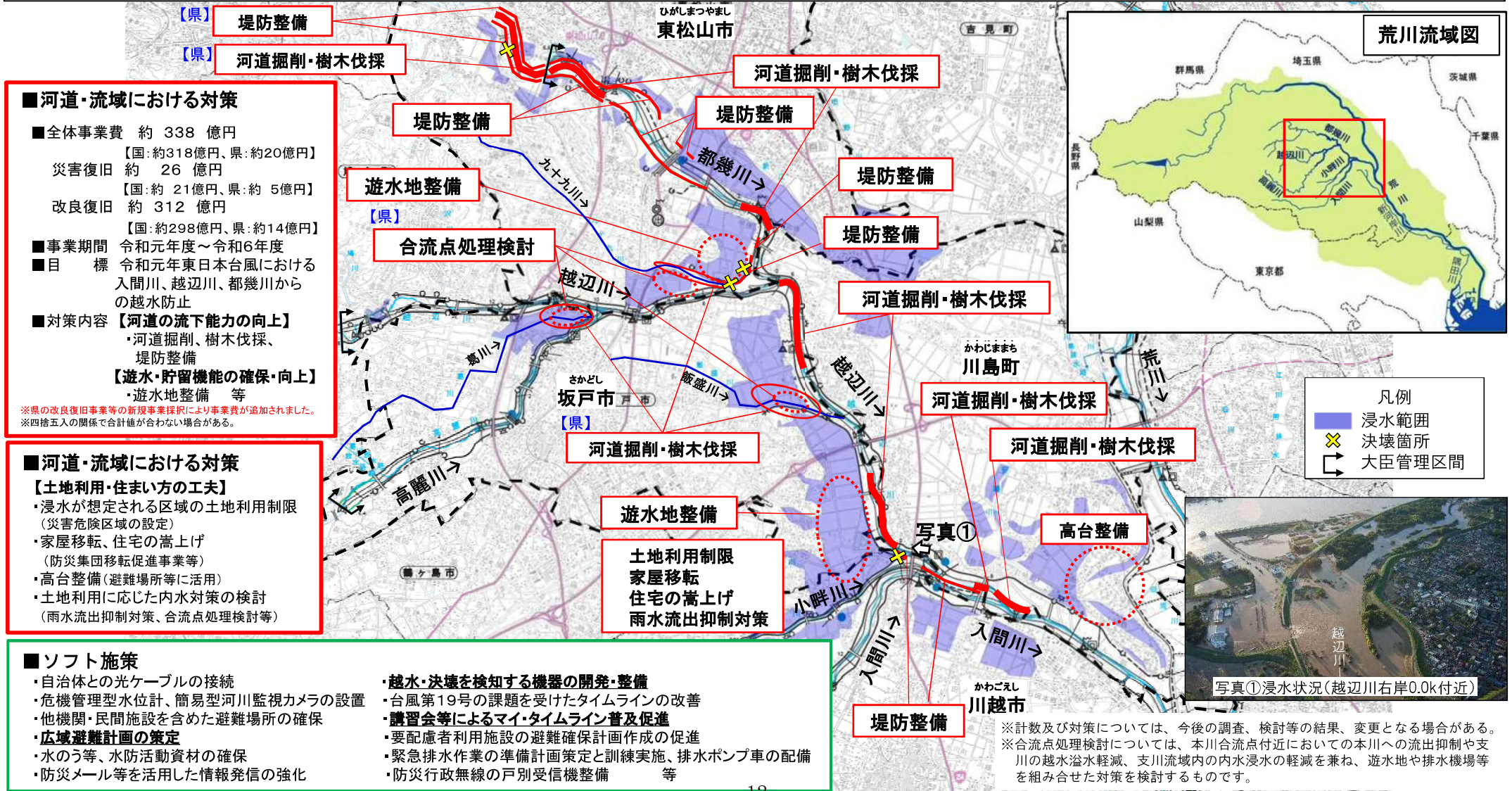


※計数については1 今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

# 入間川流域緊急治水対策プロジェクト ～多重防御治水の推進～

【令和2年度版】

- 令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した、入間川流域において、国、県、市町が連携し、「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」を進めています。
- 国、県、市町が連携し、以下の取組を実施していくことで、社会経済被害の最小化を目指します。
  - ①多重防御治水の推進【河道・流域における対策】
  - ②減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】
- 令和2年度は、決壊箇所及び越水箇所の本格的な災害復旧や、河道掘削等の改良復旧、合流点処理検討、簡易型河川監視カメラの設置、越水・決壊検知機器の開発などを進めていきます。



**■河道・流域における対策**

■全体事業費 約 338 億円  
 【国:約318億円、県:約20億円】  
 災害復旧 約 26 億円  
 【国:約 21億円、県:約 5億円】  
 改良復旧 約 312 億円  
 【国:約298億円、県:約14億円】

■事業期間 令和元年度～令和6年度

■目 標 令和元年東日本台風における入間川、越辺川、都幾川からの越水防止

■対策内容 **【河道の流下能力の向上】**  
 ・河道掘削、樹木伐採、堤防整備

**【遊水・貯留機能の確保・向上】**  
 ・遊水地整備 等

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

**■河道・流域における対策**

**【土地利用・住まい方の工夫】**

- ・浸水が想定される区域の土地利用制限 (災害危険区域の設定)
- ・家屋移転、住宅の嵩上げ (防災集団移転促進事業等)
- ・高台整備(避難場所等に活用)
- ・土地利用に応じた内水対策の検討 (雨水流出抑制対策、合流点処理検討等)

**■ソフト施策**

- ・自治体との光ケーブルの接続
- ・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置
- ・他機関・民間施設を含めた避難場所の確保
- ・**広域避難計画の策定**
- ・水のう等、水防活動資材の確保
- ・防災メール等を活用した情報発信の強化

- ・越水・決壊を検知する機器の開発・整備
- ・台風第19号の課題を受けたタイムラインの改善
- ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施、排水ポンプ車の配備
- ・防災行政無線の戸別受信機整備 等

※計数及び対策については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。  
 ※合流点処理検討については、本川合流点付近においての本川への流出抑制や支川の越水溢水軽減、支川流域内の内水浸水の軽減を兼ね、遊水地や排水機場等を組み合わせた対策を検討するものです。

# 那珂川緊急治水対策プロジェクト

～多重防御治水の推進～

【令和2年度版】

○令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した那珂川水系において、国、県、市町が連携し、

「那珂川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、県、市町が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、社会経済被害の最小化を目指します。

①多重防御治水の推進【河道・流域における対策】

②減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や河道掘削等の改良復旧、防災集団移転促進事業、簡易型河川監視カメラの設置、越水・決壊検知機器の開発などを進めていきます。

## ■河道・流域における対策

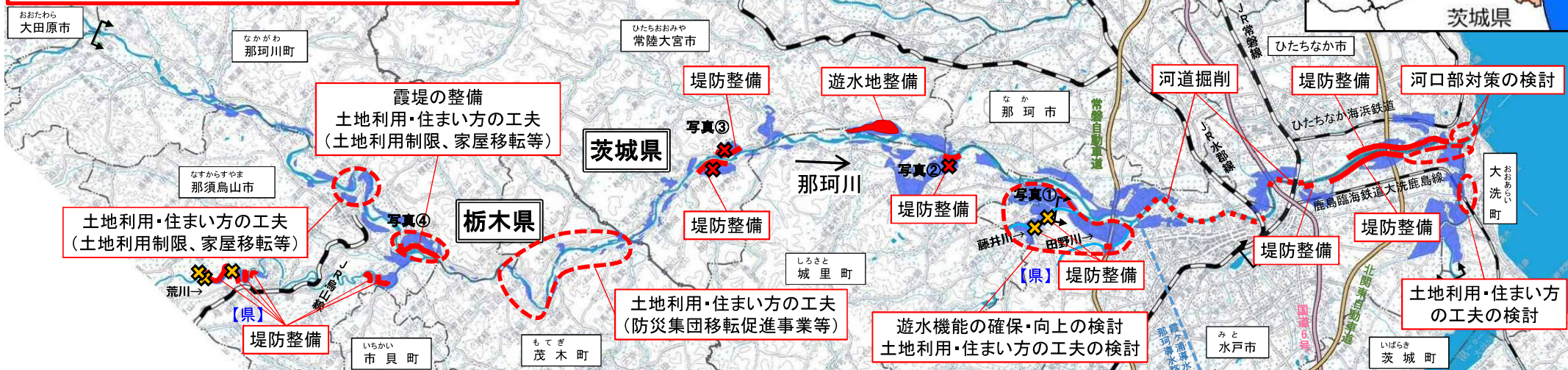
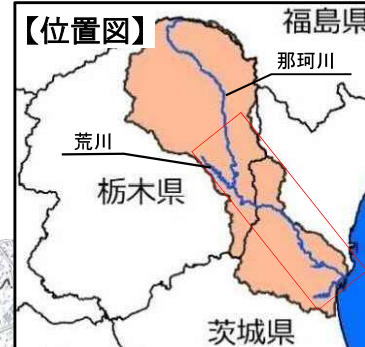
全体事業費 約665億円【国:約521億円、県:約144億円】  
 災害復旧 約219億円【国:約101億円、県:約117億円】  
 改良復旧 約447億円【国:約420億円、県:約27億円】  
 事業期間 令和元年度～令和6年度  
 目標 令和元年東日本台風洪水における本川からの越水防止  
 対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備 等  
 ※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

## ■河道・流域における対策

【土地利用・住まい方の工夫】  
 ・浸水が想定される区域の土地利用制限（災害危険区域の設定等）  
 ・家屋移転、住宅の高上げ（土地利用一体型水防災事業、防災集団移転促進事業等）  
 ・高台整備 等

## ■ソフト施策

・越水・決壊を検知する機器の開発・整備  
 ・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置  
 ・ダム操作状況の情報発信  
 ・台風第19号の課題を受けたタイムラインの改善  
 ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進  
 ・防災メール、防災行政情報伝達システム、防災行政無線等を活用した情報発信の強化  
 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進  
 ・緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施 等



写真④ 浸水被害状況（那珂川左岸61.0k）



写真③ 堤防決壊状況（那珂川左岸40.0k）



写真② 浸水被害状況（茨城県那珂市、城里町）



写真① 浸水被害状況（茨城県水戸市）

- 凡例
- ✖ 堤防決壊箇所(国)
  - ✖ 堤防決壊箇所(県)
  - 浸水範囲
  - ◀▶ 大臣管理区間

※計数及び対策については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある

# 久慈川緊急治水対策プロジェクト

～多重防御治水の推進～

【令和2年度版】

○令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した久慈川水系において、国、県、市町村が連携し、

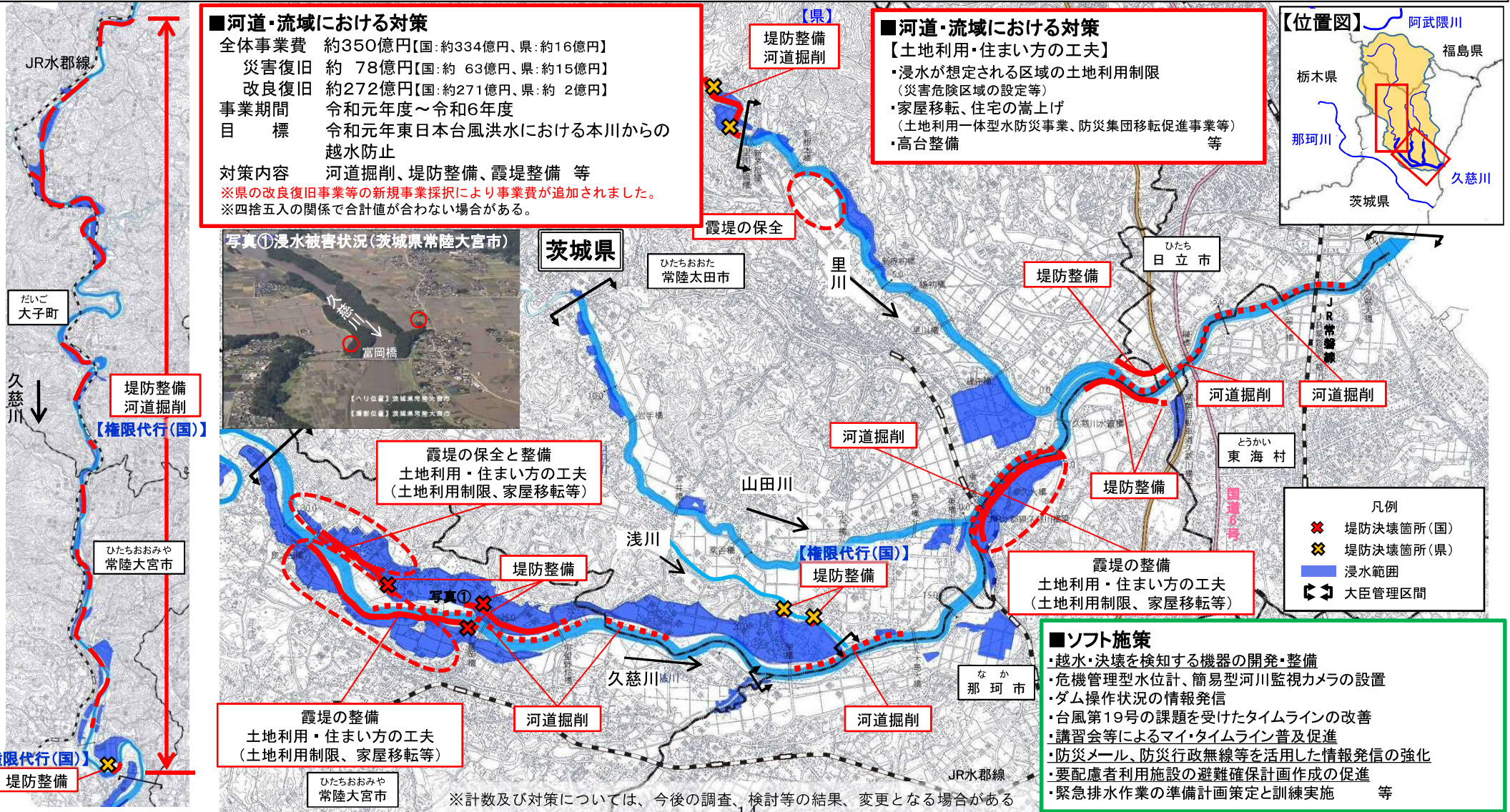
## 「久慈川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、社会経済被害の最小化を目指します。

①多重防御治水の推進【河道・流域における対策】

②減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や河道掘削等の改良復旧、霞堤の保全と整備、簡易型河川監視カメラの設置、越水・決壊検知機器の開発などを進めていきます。



# 多摩川緊急治水対策プロジェクト

～首都東京への溢水防止及び沿川・流域治水対策の推進～

【令和2年度版】

○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した、多摩川において、国、都、県、市区が連携し、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、都、県、市区が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指します。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和2年度から護岸等の本格的な災害復旧や、河道掘削等の改良復旧、簡易型河川監視カメラの設置等を進めていきます。



## ■河川における対策

全体事業費 約191億円  
 災害復旧 約28億円  
 改良復旧 約163億円  
 事業期間 令和元年度～令和6年度  
 目標 令和元年東日本台風洪水における本川からの越水防止  
 対策内容 河道掘削、樹木伐採、堰改築、堤防整備等  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

## ■流域における対策

(下水道事業等の整備促進)  
 ・流出抑制施設の整備等  
 ・既存施設(五反田川放水路(建設中))の活用による雨水貯留  
 ・下水道樋管等のゲート自動化・遠隔操作化等  
 ・移動式排水設備(排水ポンプ車等)の整備  
 ・土のう等の備蓄資材の配備等

## ■ソフト施策

- ・自治体との光ケーブル接続
- ・簡易型河川監視カメラの設置
- ・多機関連携型タイムラインの策定、運用
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施等



東京都世田谷区玉川地区の溢水による浸水被害状況（世田谷区提供）

凡例

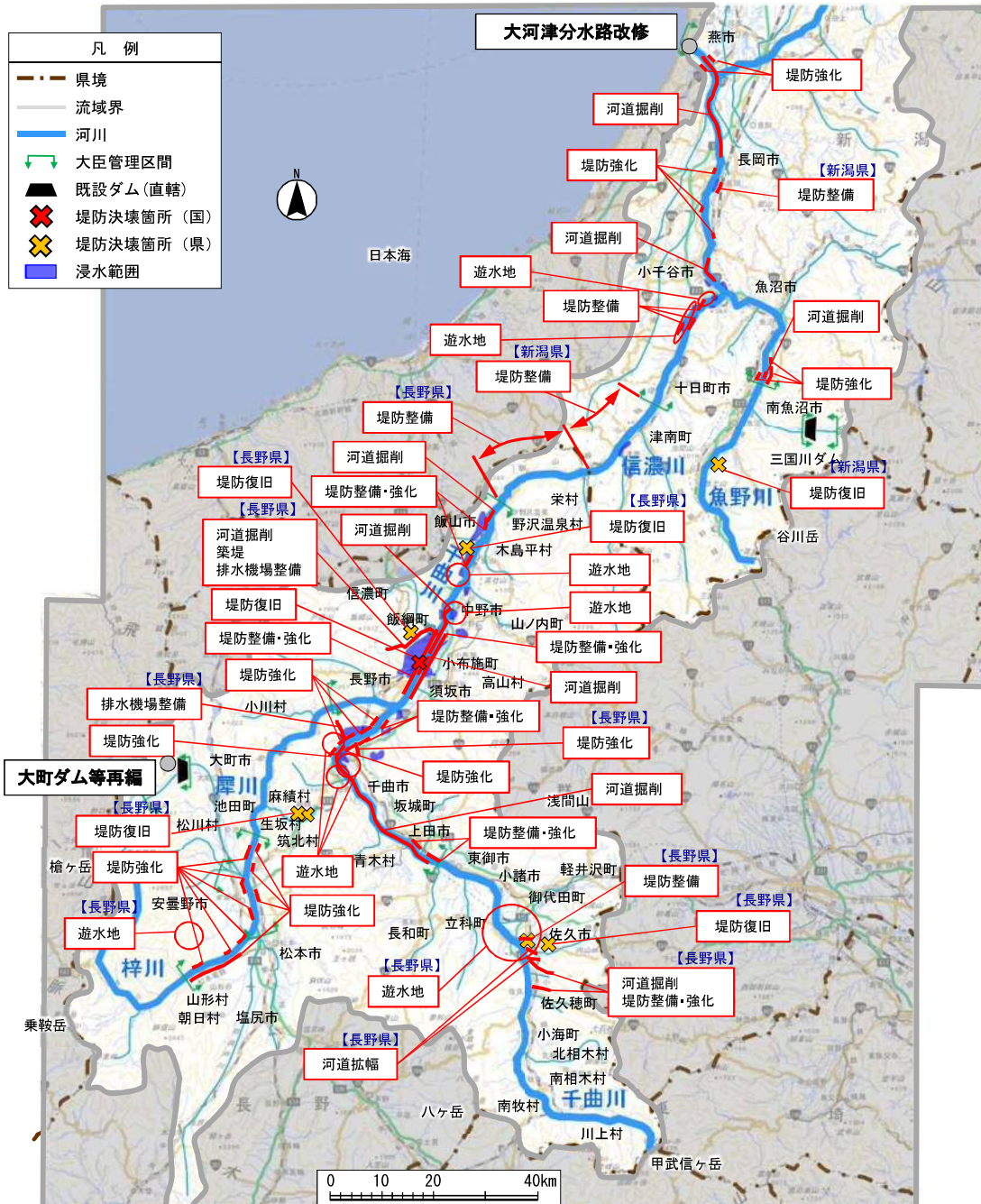
- 溢水箇所(国)
- 浸水範囲
- ↔ 大臣管理区間

# 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～

【令和2年度版】

- 凡例
- 県境
  - 流域界
  - 河川
  - 大臣管理区間
  - 既設ダム(直轄)
  - 堤防決壊箇所(国)
  - 堤防決壊箇所(県)
  - 浸水範囲



○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や、全川での河道掘削等の改良復旧、ため池等既存施設の有効利用(流域対策)、マイ・タイムラインの普及(ソフト施策)を進めていきます。

**■河川における対策**

全体事業費	約1,768億円【国:約1,227億円、県:約541億円】
災害復旧	約586億円【国:約214億円、県:約372億円】
改良復旧	約1,183億円【国:約1,013億円、県:約169億円】

事業期間 令和元年度～令和9年度

目標 【令和6年度まで】  
令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における  
・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止  
・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

【令和9年度まで】  
令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における  
・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。  
※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

**■流域における対策**

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等

**■ソフト施策**

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、  
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における  
浸水被害状況

※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合があります。

※本対策箇所は主要箇所のみ記載しています。  
※大河津分水路改修と大町ダム等再編事業は、プロジェクトと並行して継続実施する。  
※本プロジェクトは、短期的(概ね5～10年)の達成目標であり、プロジェクト終了後も継続し、中・長期的に対策を講じる16